

18年新課程入試情報

センター試験リスニング 試行テストは、こう行われた！

【PART.1 解説】

— 全国 503 大学で約 4 万人の高校 2 年生が挑戦 —

旺文社 教育情報センター
平成 16 年 11 月 13 日

平成 18(2006)年度のセンター試験から導入される、英語リスニングテストの試行テストが、さる 9 月 26 日に全国各地の大学会場で実施された。受験対象となったのは、18 年度の現役受験生となる現高校 2 年生で、希望者の中から抽選の末、約 4 万人が受験した。当日の実施状況については、既に当サイト上でお伝えしているが(9 月 28 日)、このほど旺文社独自のアンケート結果がまとまった。そこで、これまでの取材およびアンケート調査の結果をもとに、リスニング“予行演習”の実像にせまる。

リスニングテストの導入

18 年度のセンター試験から、『外国語』で英語を選択する受験生は、必ずリスニングテストを受けることになった。試験時間は 30 分で配点は 50 点。休憩時間をはさみ従来の筆記試験とセットで行われる予定(筆記試験は、試験時間 80 分・配点 200 点)で、試験にあたっては IC プレーヤーによる個別音源機器が使用される。共通 1 次試験(昭和 54<1979>年～平成元<1989>年)からの懸案であったリスニングテストが、初めて実施されることになる。

リスニングテストの成績を合否判定に利用する大学は、18 年入試科目の発表を見ると、国公立大の 9 割以上にのぼり(16 年 8 月末:文部科学省調査)、私立大のセンター試験利用入試では、英語を課す(または選択可能な)学部・学科のうち約 6 割が利用する(同 7 月:旺文社調査)ことが判明している。

試行テスト

さる 16 年 9 月 26 日の日曜日に、本番に先だって、リスニングの試行テストがセンター試験を利用する大学を会場として、全国 503 大学 508 会場で行われた。18 年度の本番でリスニングテストを円滑に行うため、大学側に実施の手順に慣れてもらうことや、試験に使用される IC プレーヤー等の性能確認(聞こえや作動の具合)などが実施の目的とされる。受験料は無料。試行テストの結果は受験者には通知されないが、当日使用された問題(音声を含む)については、年内(16 年)に大学入試センターのホームページ等で公表される予定。

旺文社では、東京工業大学と早稲田大学の2会場へ出かけ、受験者に取材を試みた。また、試行テスト受験者を対象に、旺文社独自のアンケート調査を行った。以下に、大学入試センター提供の資料と、当日の取材結果、そして旺文社アンケートの調査結果をもとに、試行テストがどう行われたかを再現した。

PART.2では、当日どのようなスケジュールで実施されたかを、ICプレーヤー等の操作を中心に解説する。PART.3では、難易レベル、出題内容、試験実施方法についてなど、アンケートの調査結果を紹介。さらにPART.4では、小社の英語参考書編集スタッフの協力のもと、出題内容・レベルについて推定・分析を試み、その対策を考えた。最後にPART.5では、今後の対策として、お二人の高校の先生より、受験生へのアドバイスをいただいた。

『センター試験リスニング試行テストは、こう行われた！』

- PART.2 テスト当日の流れ
- PART.3 受験者アンケート調査結果(集計)
- PART.4 問題分析&推定例題
- PART.5 まとめ&対策